



こだわりの印刷で想いをカタチに

OIL MOUNT PRINTERS 代表 日高 太一氏

魔法のように描く シルクスクリーン印刷

多様な素材にプリントができる印刷技法として知られるシルクスクリーン印刷。メッシュ状の版（スクリーン）を使ってインクを直接素材に刷り込む方法で、色ごとに専用の版を作り刷り重ね、鮮やかで耐久性の高い印刷物を作ることができます。紙だけではなくプラスチック、ガラス、金属、布などにプリントできることから、さまざまなノベルティグッズ作りに活用されています。そのシルクスクリーン印刷にこだわりを持って取り組んでいるのが、福岡市南区西長住のOIL MOUNT PRINTERSです。代表の日高太一さんは「何もないところに一瞬で魔法のように絵柄が浮かび上がるのがシルクスクリーン印刷。印刷媒体を選ばないので、幅広い用途に活

用できます」と魅力を語ります。現在は文具・雑貨メーカーの各種商品の印刷のほか、Tシャツやバッグ、アーティストのポスターなど、あらゆる制作物作りに携わっています。

日高さんは高校時代から服飾について学び、ファッション系の専門学校に進学。ものづくりが好きな日高さんがアクセサリーや洋服を作る中で、先生から勧められて始めたのが、シルクスクリーン印刷だったと言います。「兄からシルクスクリーンのキットをもらい、自分で描いた絵をTシャツに印刷したのが始まりでした。現在は同じ商品を一定数作る事業形態ですが、最初は1点もののコラージュ作品などをひとつひとつ製作するアーティスト寄りの活動でした」と振り返ります。音楽イベントのTシャツやファッションショーのスタッフTシャツなどを手掛けるように

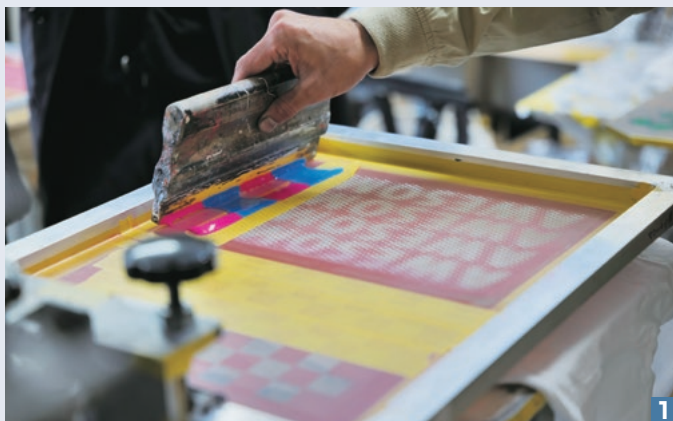
なった後、大手印刷会社や実家である印刷会社での勤務を経て、2016年に独立。「当時、油山の近くにある家賃3万円の事務所でスタートしたので油山印刷所と名付けました。英語にするとOIL MOUNT PRINTERSです。周辺にはイノシシが頻繁に出ていたので、会社のロゴはイノシシのイラストなんですよ」と創業当時を振り返ります。

フルカラー印刷を導入し 多様なニーズにも対応

そうしてスタートしたOIL MOUNT PRINTERSが同業他社との差別化として始めたのが、全国各地でシルクスクリーン印刷の楽しさを伝えるワークショップでした。「多くの印刷店が存在する中で、自分たちのオリジナリティを打ち出す必要がありました。そこで、印刷

【プロフィール】

福岡県生まれ。専門学校を卒業後、アルバイトや印刷会社などを経て、趣味だったシルクスクリーンでのTシャツづくりが高じ2016年に独立。OIL MOUNT PRINTERSを立ち上げる。



1 1 どんなものにも印刷できると言われるシルクスクリーン印刷。「魔法使いのようにどんな案件も実現できる」と魅力を語る

3 マグカップやアクリルスタンドなど、さまざまなものづくりが気軽に楽しめるようになる「ツバメの印刷所」のオープンにも期待が高まる

2 シルクスクリーン印刷の楽しさ、ものづくりの楽しさを伝えるワークショップ。「将来的には全国各地を回ってみたい」と日高さん

4 Tシャツをはじめ色々な印刷をカタチにする。シルクスクリーンだけではなく、お客様に寄り添った印刷方法を提案している

の楽しさをより多くの人に伝えるため、ワークショップの企画数日本一を目標に掲げ、積極的に取り組みました」。その結果、大手企業からの受注につながり、SNSを通じて対外的に発信していくという仕事のサイクルを生み出したと言います。しかし新型コロナの感染拡大によって、ワークショップは中断してしまっただけ。

そこで日高さんが新たに導入したのが、フルカラー印刷のDTFプリントです。「Direct to film」の略で、特殊なフィルムにインクジェットプリンターでデザインを印刷し、そのフィルムを使って布などの素材に高温のプレス機で転写する印刷技術です。衣類などへの新しいプリント方法として近年話題になっています。「シルクスクリーン印刷は色ごとに版を作る必要があり時間がかかるため、フィルムに直接デザインを印刷するDTFプリントを導入しました。細かいデザインも高い精度で再現でき、一般的なインクジェット印刷と比べて鮮やかな仕上がりになります」と日高さん。2023年にはDTF専門のプリントスタジオ「DTF STUDIO Fruits」を立ち上げました。以来、味わい深い製品はOIL MOUNT PRINTERS、短納

期で色鮮やかな製品の場合はDTF STUDIO Fruitという形で、ふたつの軸でものづくりに取り組んでいます。

印刷という大きな枠組みでお客様に寄り添う

シルクスクリーン印刷、DTFプリントに次ぐ事業の柱として計画しているのが「ツバメの印刷所」です。フルカラー印刷機やレーザー加工機を備え、親子などお客様自身がものづくりを楽しめる場所づくりを目指しています。「まだオープンはしていませんが、とても思い入れが強い場所です。安く済むから自分で作る人よりも、ものづくりのプロセスを大切にしてくれる人に来てほしい」と意気込みます。

「自分たちが対応できる印刷物だけを請け負うのではなく、お客様が何を望み、どうすれば喜んでもらえるかを印刷という大きな枠組みで解決したい」という日高さん。「私たちの強みはお客様に寄り添うこと、想いを形にすることだと思っています。また、利益だけを重視するのではなく、従業員がものづくりを楽しみ、誇りを持てる仕事を受注していきたい」と強調します。そのため、お

客様の要望をヒアリングした結果、他社やネットプリントなど最適な印刷手法を紹介することもあるといいます。「印刷には、お客様を喜ばせる力があると思います。様々な印刷方法が生まれていますが、それぞれ長所と短所があり、ロマンがあります。その中でも一番好きなのはシルクスクリーン印刷ですね。例えるなら、当社の基幹事業であるシルクスクリーン印刷が木の幹で、そこにDTF プリントという果実が実り、お客さんがなんだか楽しそうと寄ってくるツバメであるように、木が大きくなればなるほど、喜んでくれるツバメ(=お客様)が増えるような形を作っていきたいです」と意気込みます。

取材日：9月19日



OIL MOUNT PRINTERS

〒811-1361 福岡市南区西長住

3-22-3

E-mail: hello-omp@oilmount.com

https://www.instagram.com/taichi_sq/

